

9/16 (月) トモダチ×ガ×イッパイ

Banjumrung 滞在 4 日目。

8 時頃にのそのそ起床して、home 先で朝ご飯。ウナギ？をぶつ切りにして油で揚げるといふ豪快な一品でした。

この時、食器を出したりご飯をよそったりしていましたが、柵の上に私があげたカステラの箱が置かれていて、ああ食べてくれたんだなあとちょっと感動しました。

また、久しぶりにゆで卵を食べました（高知でもあまり作らないので・・・）。

その後は洗濯をしたり少しのんびりしてから、コミュニティセンターへ移動しました。今日は自転車を 3 台貸してもらえるということで、もしかしたらセンターの方に置かれているのではないか？と思ったのが全ての始まりでした・・・

自転車は（他人のものしか）なく、センター内も閑散としていてお休みモードでした。と、たまたまそこにブンさんがいて「何をしたいのか？」と聞かれたので、とりあえず自転車よりも調べるべき課題の 1 つ・Banjumrung の homegarden について尋ねてみました。

すると、とあるお宅まで案内していただき、出てきた女性・・・ファンさんに「彼女は英語が話せるジーニアスだから」と私たちを押し付けて（笑）ブンさんは帰って行きました。

残された私たちはというと、ファンさん宅におじゃましてケーキ（誕生日ケーキの残り）で休憩して、家の周辺にある homegarden を案内してもらいました。

これは彼女のおばあちゃんが所有・管理している畑（オーガニック）で、ジャックフルーツ・パパイヤ・ドラゴンフルーツ・バナナなどの果樹や、伝統食にも使われる野菜やハーブの種類など、とても様々な植物が育てられていました。彼女曰く、住人の多くがこのような広い土地を持っていて、フルーツや野菜を栽培し、収穫→販売→売り上げを畑に投資・・・のサイクルが行われているそうです。また、村の食事に使う野菜は各家から持ち寄るとのことで、私は特定の畑でまとめて作るものだと思っていたので、とても驚きました！

またアトィさんのお宅もすぐ近く（ここは集会所周辺）で、大きな池で飼われている魚が、食用ではない＝ただの趣味、だと知って笑ってしまいました(^皿^)

その他にも、今日は作業していませんでしたが、ナンプラーやガピの加工所も見学しました。

そのままファンさん宅、正確にはファンさんのおばあちゃんの家に戻って、希呼に「会話をさせない美味しさ」と言わしめたドリアンチップスやら、マンナン種の？を水に入れて膨らませた、タピオカのようなダイエット飲料を試してみたりしました。お昼もそのままそこでいただきました！

あまり辛い料理がなかったのが幸いでした・・・

食事の後は、近所のおばちゃんの荷台付きバイクに乗せてもらって、ファンさんと一緒に貯水湖（トイレなどの生活用水）を見に行ったり、rice field を通ったりして、またブンさん宅へ帰りました。

赤ちゃんのイーにあげたウサギの折り紙が、一瞬でグシャァ・・・とされたことには苦笑するしかなかったです(´皿`;))

すると、何ということでしょう！

home に自転車が届けられているではありませんか！！

しかも空気を入れてくれる最中で、感動して近寄ってみると・・・1 台どうにもボロくて使えなさそうな自転車が・・・

「これは・・・乗れるのか・・・？」と顔を見合わせ、とりあえず洗濯物を干したいという希呼を、本を読みつつ待っていたところ

hostmother のおばちゃんは何やら話しかけてきて、いいからバイクの後ろに乗れと私にジェスチャーしてきました。意味が分から

ないまま、おばちゃんに拉致(?)される私…

進む方向的に「そうか、やっぱりセンターにあった自転車は私たちのものか!」と、思った私でしたが、バイクはそのまま道路をひた走り、着いた先はどなたかのお宅(お店が併設)。おじさんが自転車の修理をしていました。

そこでロードバイクを貸していただき、やたらサドルの高いそれに乗ってブンさん宅まで引き返しました(笑)本当に高すぎて、座る→ペダルを踏む→動き出す、の動作が難しかったです。

そうして何とか無事に帰り着いた後は、自転車を希呼とチェンジして、3人で初サイクリングへ! **Banjumrung** を見て回る気ままな旅に出ました。

ゴムの木の林を見たり、**rice field** の写真や動画を撮ったり、よくわからない道を進んでみて子犬に追っかけられたりと、汗だくでしたが楽しい時間でした。ところで途中の林で見た、1本だけ突き抜けて高かった樹は一体何だったのでしょうか…

そしてセンターに戻ってしばらく経つと、どうやら観光客のご一行がバスでやってきたようで、ツアーバス(オープンバス)に乗り込み始めていました。と、「いい機会だから一緒に乗って周辺を見てくるか?」とヴィロウさんから声がかかりました。

という訳で、見知らぬ人たちの中に紛れ込ませてもらい(私たちの事情は説明されていた様子)、前回訪れた時と同じルートで周回ツアーへと出発!

英語を話せるおばちゃんに聞いてみたところ、彼らはスウリンというギリギリ東北部の地域から、車で6~7時間かけてやってきたのだそうです。そして日本には来たことがないけれど、毎年10~15人くらいの日本人客を **homestay** (1週間) で迎え入れているのだとか。**Banjumrung** と似たようなところなのかなと思いました。

指差し会話帳を見せると、ここだここだ!と場所を示してくれて、何故かターイ オラタイという東北部の歌手に反応していました。スウリン出身ではないけど有名な人なのか?

他にも、雨が降り出した時に「日本で **rain** は何と言うのか」と聞かれて「**Ame**」と答えたら、バス全体が「**Ame! Ame! ME ME ME ME!!**」と謎の盛り上がりっぷり…名前を聞かれた件もやたらテンション高くて、おじさんから何故か握手を求められたくらいです。

私たちの珍しさからか質問も多く、とてもフレンドリーに接していただきました。

(ちょっとよく分からなかったのは、日本の名前としてよく聞いたのが「**YOKOHAMA** (横浜)」というワードです。サッカーファンの方が日本人選手の名前を挙げるのは理解できますが、何故に横浜…タイでは日本車が多いので、タイヤメーカーの **YOKOHAMA** のことを言っているのかな?と思いました、確認できませんでした)

そしてどういう流れか、パーノムさんという方と仲良くなりメールアドレスを教えてください「ぜひメールをくれ」と言われてしまいました。出会って2時間! 会話は指差し会話帳とジェスチャー! よく頑張ったもんだと自分を褒めてあげたいです(^O^)

センターに帰った後は、いつもどおり夕食をいただきました。あんかけ野菜炒め? がやっぱり美味しくて、辛いと分かっているものには手が伸びませんでしたごめんなさい!

マーリィさんやアートイさんと会話帳で話しながら、「プアン サニッ(親友)」だと言われて抱きしめられたり、「ター トー(目が大きい)」と褒められたり(ついにタイ人にも言われるとは! 確かに小さくはないと思っていますが)。少しずつ皆さんとの距離が縮まってきているような気がします。

相変わらず会話帳が大活躍していて頼もしいです。

ガチャガチャと片付けてさあ帰ろうかと思ったら、ブンさんから酒盛りへのお誘いが! 「ラオ(ウイスキー)飲めるか?」という問いに「**Yes**」とつい言ってしまった私…希呼が持ってきた日本酒・土佐鶴や日本のタバコとかもひっくるめて、ブンさんやターさんと色々語りながらの飲み会でした。

友達の譲治がブンさんの写真に写っていて(2年前)、ああやっぱり彼はすごい人だなと再認識した瞬間もありました。

明日は一体何が起こるのか? 良い1日になればいいなあと思います。